

ルシャのゴミを拾いました

6月25日(金)に、林野庁、環境省、北海道、斜里町、地元漁協などから約80名が参加して、ルシャ地区の清掃を行いました。海岸には、ペットボトル、プラスチック容器、漁網などが散乱しており、これらのほとんどはシケ時などに打ち上げられたものと思われる。

参加者はゴミ袋を両手に持ち、一つ一つ拾い上げていました。なお、漁網など大きなものは、クレーンで吊り上げ回収しました。集めたゴミは、約2時間で 美しい海岸にもゴミはありました 4トントラック6台分となり、参加者一同その多さに驚いていました。



白岳山開き

～シーズン中の安全を祈願しました～

7月4日(日)に、羅臼岳の山開きが行われました。あいにくガス混じりの曇り空でしたが、約40名が参加して今シーズンの安全を祈願しました。

羅臼岳は『日本百名山』の一つですが、最近同じく百名山である斜里岳、雌阿寒岳とセットにした本州からのツアー客などが増えています。ケガには十分に注意して登山してほしいところです。

玉串を捧げる斜里町山岳会長

ようこそ IUCN調査団・シェパードさん

今年1月に世界遺産委員会に推薦書を提出した知床世界自然遺産候補地の現状を調査するため、7月20日～25日の日程で、世界遺産委員会の諮問機関である国際自然保護連合(IUCN)の専門家デビット・シェパード氏による調査が始まりました。

現地調査初日である21日には、同氏を「知床自然観察教育林」に案内し、センター所長から、知床の森林生態系、特に①森林生態系保護地域の保全利用地区に指定されていること、②代表的な針広混交林であること、③代表樹種であるトドマツ、ミズナラ、ダケカンバ、イタヤカエデの特性・用途、④知床半島の植生垂直分布などについて説明しました。

なお、これらの「知床の森林、植生の特徴」については、同日午後、北海道大学名誉教授五十嵐恒夫氏により、専門家の立場からさらに詳しい説明がありました。

22日以降に予定されているヘリ視察、洋上視察、知床連山縦走などを経て、後日同氏が作成する「本件審査レポート」に基づき、来年7月に南アフリカのダーバンで開催される第29回世界遺産委員会において、世界遺産一覧表への記載の可否が決定されます。



説明を受けるシェパードさん



北海道森林管理局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



(写真: シラタマノキ)

知床は今



黄色が鮮やかなタモキノコ

7月に入って雨を待っていたかのように、知床の自然観察教育林ではタモキノコ(標準和名:タモギタケ)が一斉に顔を出し、緑のキャンパスに黄色の絵の具を巻き散らしたようで、目を楽しませてくれます。…森林踏査中よく熊や熊の形跡を眼にしますが、今はタモキノコが主食のようです。…

羅臼湖に向かう遊歩道上(国道より100メートルほど入ったところ)では山桜が花咲かせていたり、時季はずれの椎茸が顔を出したり、ナナカマドの枝の一

部が紅く染まっていたり、「蝦夷梅雨」を通り越した寒さが私たちだけでなく、山の住人たちにも影響を与え、タモキノコを食べたクマの糞



悠然と歩くヒグマの親子

ている様です。7月も半ばを過ぎようやく暖かな日差しとなり、知床もこれから短い夏をスタートしようとしています。

第69回森林レクリエーション・in知床
『知床の森に幌別川の滝を訪ねて』を開催
～初夏の世界自然遺産候補地を堪能しました～

第69回森林レクリエーションin知床『知床の森に幌別川の滝を探して』を7月8日(木)に行いました。参加者は多数の応募者の中から抽選で選ばれた北見市のほか網走市、訓子府町、端野町、斜里町の男性8名、女性15名の計23名です。今回の目的地は幌別川にある「轟きの滝」を目指しての森林散策です。「轟きの滝」は落差10mほどの滝で、一般の方は見る機会はありません。

現地に着くまでの間、①万が一、熊に出会ったら、②蜂の対処法、③ダニ対策、④ウルシのかぶれに注意などの説明を行ったのち、10時過ぎに現地入り口に到着し、準備をしてから林内に分け入りました。



木の用途について解説しています

途中、ミズナラ、トドマツ、イチイの用途などを職員から聞き、ゴゼンタチバナ、マイヅルソウ、オオヤマフスマなどの植物を観察しながら、30分程でボンホロ沼に到着しました。

今年は雪が多かったため、きれいなボンホロ沼を見ることができました。

小高い通称「馬の背」を過ぎ、いよいよ幌別川に向けて坂を下っていきました。何人かの参加者から、「行きは下りだと、帰りは登りばかりね」の声も出ました。オホーツク圏では珍しい「エゾユズリハ」の群落を眺めつつ、足元に十分注意しながら幌別川にたどり着きました。展望台から、勢いよく水を落と



奥に見える滝がクマゲラの滝です

している「轟きの滝」「クマゲラの滝」を堪能し、昼食をとりました。

昼食後の帰りの坂もゆっくりと登り、途中で立ち木にタモキノコが花を咲いたようになっていて、参加者からは「こんなの見たことない」との声もあがり、シャッターを切る人もいて、しばしの休憩となりました。

ここは知床の森林の中、きれいな空気が漂い、気分を十分にリフレッシュができ約4時間の森林散策を終了しました。



ボンホロ沼を背景に記念撮影

第52回森とのふれあい
『初夏の知床の森で地球温暖化について考えよう』を開催
～炭焼きと幻の沼「ボンホロ沼」で自然散策～

第52回森とのふれあい『初夏の知床の森で地球温暖化について考えよう』を6月13日(日)に開催しました。

参加者は、抽選で選ばれた男性8名、女性14名の計22名です。

午前中は、森林センター敷地内に設置したドラム缶型の簡易炭窯で炭焼き体験をしました。今回炭にする原木は、林道に被いかぶさり邪魔になり切られた木です。まず鋸で原木を切るところから始め、粘土で窯口を塞ぎ、原木へ着火させる口焚きは、火起こし道具でチャレンジ。初めて火起こし道具を使う方ばかりでしたが、今回は子供達が挑戦し、火起こしを始めて5分ほどで大きな火がつき、それを木くずに移し息を吹きかけるうちにあっという間に大きな炎が上がり大きな歓声が上がりました。無事に原木に着火し、炭の用途について、畑や庭に炭を入れる



最初に炭にする原木を切ります

と良いことや、冷蔵庫や下駄箱に炭を入れたら臭い匂いが消えた体験談をお話しました。最後にあらかじめ焼いておいた炭を窯から出し持ち帰ってもらい、参加者の方々から炭の用途を実際に試してみますとお話がありました。

午後からは、知床峠に向かう途中にある自然観察教育林へ移動し、春先の雪解け時期にのみ見られ幻の沼と言われる「ボンホロ沼」周辺を散策する自然観察を行いました。身支度を整えた一行は、倒木の役割や森林の働き等の説明を受け、クマゲラが餌を取るために開けた大きな孔や、トドマツに付いた熊の爪痕などを観察しました。



炭の焼き方について解説しています

今年は例年より沼の水が多く、周辺は新緑で覆われ静寂を保っていました。あいにく羅白岳に雲がかかり水面に映える羅白岳の姿は見られませんでした。森の爽やかな空気に浸り自然観察を終えました。



大きな岩の上に木が育つのはなぜ?



幻の沼を背景に記念撮影